

木質文化財研究会 2014 第1回見学・講演会 国立民族学博物館

<http://www.minpaku.ac.jp/>

今年度第一回目の見学・講演会は、6月6日、国立民族学博物館（大阪府吹田市）にて“無形文化遺産に関わる木質”をテーマに開催しました。

木質文化財研究会では、“文化財とは何か”を捉える上で、美術工芸・建造物あるいは遺跡出土品・伝世品・・・などの従来の文化財カテゴリーにとどまらず、文化財を支える技術や文化そのものについても視野に入れておくべきではないかと考えています。有形文化遺産のみならず、無形文化遺産にかかわる木質文化財やそれらを支える技術が世界各地にあることも、理由のひとつです。



そこで、今回は、2003年にUNESCO無形文化遺産に登録されたマダガスカル・ザフィマニリの木彫り知識について、民族学博物館・准教授、飯田卓先生にご講演頂きました。（参考文献：国立民族学博物館編・霧の森の叡智 マダガスカル無形文化遺産のものづくり、2013年3月）講演では、博物館の民族誌資料コレク

ションの沿革、そして伝統的な木彫技術そのものだけでなく、木彫をめぐる文化が、UNESCO指定後、注目されることによって観光化・商業化が進む今日の問題点についてなど、興味深い話題提供を頂きました。

また、国立民族学博物館のご厚意で、展示室を観覧させて頂くほか、講演会終了後はバックヤードを見学させていただき、マダガスカルの木彫に関する種々のコレクションを実際に手にさせていただくことができました。改めまして、関係者の皆様にお礼申し上げます。